

羅針盤



ステロイド外用薬の影とは？—その副作用の誤解を解くために—

江藤 隆史

Takafumi Etoh

東京通信病院皮膚科部長, Visual Dermatology 編集委員

今回「ステロイド外用薬の光と影」というタイトルで、2009年2月号は江藤が「副作用とその誤解」すなわち「影」のパートを担当し、3月号は、大概マミ太郎先生が使い方のコツなどの「光」のパートを編集企画した。

まだまだメディアにおいては、ステロイド外用薬の副作用の誤解を生じるような、あるいはまったく誤った考え方を植えつけるような記事が絶えることなく報道され、迷える患者さん、とくにアトピー性皮膚炎患者さんたちに多大な健康被害を及ぼしてきている。日本皮膚科学会では、このような危険な方向性を是正し、一部の医師がまだステロイド外用薬の使用に消極的あるいは否定的であることを問題と考え、2000年から『アトピー性皮膚炎の治療ガイドライン』を作成し、改訂を重ねており、さらには2008年3月には、EBMに基づいた内容を多数盛り込んだ『アトピー性皮膚炎診療ガイドライン』が発表されるに至っている。ステロイド外用薬を中心に、タクロリムス軟膏の有用性も言及した新しいガイドラインとして、アトピー性皮膚炎の標準治療の普及が進行中といえる。

多くの患者さんは、現在でもステロイド外用薬に対し「何となく怖い」「ずっと使っていると大変なことになるのでは？」と考え、使用途中で次第に消極的になり、コンプライアンスの低下からアトピー性皮膚炎の悪化を来し、「塗っているのに効かなくなってきた(ステロイド抵抗性?)」「長く外用していたら皮膚が厚く、黒ずんで



きた」などと考えるようになっている。私が昨年参加した市民公開講座などで、「ステロイド外用で皮膚が黒く、厚ぼったくなることがあると思う方は手をあげてください」と会場に問いかけると、パラパラと2~3割の聴衆の手があがるが、実際には半数以上はそのように思っているようである。さらに、処方箋を院外に出す場合、院外薬局の薬剤師さんから「この薬は強めなので、あまり塗らないほうがいいですよ。皮膚が厚く黒くなるかも

しれないので」などと説明を受け、コンプライアンスが低下して、皮膚症状がなかなか改善しない例も少なくないようにも思われる。

この特集では、知っておくべき主要な副作用についてまとめるとともに、誤解されている副作用の実態について考察してみた。主要な副作用については、東海大学小澤明教授にお願いし、馬淵智生先生を中心に協力頂き、眼合併症に関しては、東京医科大学眼科の後藤浩教授、当院の眼科の内田研一先生にお忙しい中執筆いただいた。また、昨年新聞をにぎわせた、デルモベート入りのNOATOクリーム(FDA承認の“ステロイドを含まない”アトピー治療化粧品?)については、神奈川県浅井俊弥先生にコラムで参加いただいた。ほか、多くの先生方にご協力頂き、この場をお借りして、深謝いたします。ステロイド外用薬を主体とした標準治療がますます普及するよう、奈良の大仏さんとともに祈念いたしております。